



株式会社学生情報センター
代表取締役社長

吉浦 晴博

あらゆるステークホルダーをつなぎ、新たな価値創造へ

学生情報センターを中心とするナジックグループは、東急不動産ホールディングスの一員として、学生レジデンス事業、キャリア形成支援事業および社会貢献活動への支援を展開し、安全・安心な住まいの提供からキャリア教育、ボランティア、就職活動、アルバイト紹介に至るまで、学生生活をトータルに支援しています。

私たちは一貫して、「すべては学生のために」を事業の根幹に置き、学生や学校を取り巻くステークホルダーの皆さまとともに学生支援に取り組んでまいりました。現在、約45,000室の学生用住居を管理運営し、提携する全国530を超える学校や教育界・地域と密接に関わりながら事業を展開できているのも、ひとえに長きにわたりご信頼とご期待を寄せていただいております保護者さま、教育界や地域の皆さま、企業の皆さま、そしてマンションオーナーさまのご理解の賜物と厚く御礼申し上げます。

私たちの価値は、何かと何かを「つなぐ」ことから生まれます。政府が掲げる「留学生30万人計画」に沿った留学生の就職・定着支援、学生の実践力強化に資するインターンシップ推進など、教育界が抱える課題に真摯に向き合いながら、学生が社会や世界とつながる魅力的な機会を提供してまいります。

愛情を込めて学生の生活とキャリア形成をサポートし、生涯に亘って輝き続ける人材を社会に送り出すことで、誇りある未来を創造するために——。私たちは、あらゆるステークホルダーを有機的に結びつける総合プラットフォーム企業をめざして、これからも新たな価値創造に努めてまいります。

グループ紹介動画「ナジック123!」

ナジックグループの取り組みを分かりやすく紹介する動画を公開しています。ぜひご覧ください。



1. ナジックについて



2. 学生マンション事業について



3. キャリアサポートについて

ナジックウェルカムパーティ2019 開催日程

学生のみなさま、ご入学おめでとうございます

5月 9日(木) ホテル阪急インターナショナル(大阪)	5月29日(水) ホテルモントレ仙台(仙台)
5月14日(火) ホテルニューオータニ博多(福岡)	6月 5日(水) ホテルグランヴィア京都(京都)
5月21日(火) 名古屋東急ホテル(名古屋)	6月28日(金) 京王プラザホテル(東京)

TOKYU FUDOSAN HOLDINGS GROUP



東急不動産ホールディングスグループは、価値を創造し続ける企業グループとして、ハコやモノの枠を超えて、ライフスタイルを創造・提案しています。持株会社である東急不動産ホールディングスの下、東急不動産、東急コミュニティー、東急リパブル、東急ハンズ、東急住宅リース、学生情報センターの主要6社を中心に、都市事業、住宅事業、管理事業、仲介事業、ウェルネス事業、ハンズ事業、次世代・関連事業の7つの事業を展開しています。理想の街づくりをめざして1918年に設立された田園都市株式会社による田園調布の開発以来、脈々と受け継がれる「挑戦するDNA」とグループ総合力を活かして、お客さまに新たな価値を提供し続けています。

学生情報センター www.nasic.co.jp 学生マンション情報 749.jp 学生キャリア支援 www.nasic-is.co.jp

ナジックニュース2019 (Vol.24)

発行日: 2019年4月25日 発行元: 株式会社学生情報センター 発行人: 吉浦 晴博

京都本社 〒600-8216 京都府京都市下京区烏丸通七条下ル ニッセイ京都駅前ビル6F TEL:075-352-0033(代)
東京 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル10F TEL:03-5466-1200(代)

東急不動産ホールディングス



NASIC NEWS

2019 NATIONAL STUDENTS INFORMATION CENTER
ナジックニュース

Vol.24

ナジックグループ年刊誌



学生レジデンス事業

住まいの拡充と進化

- 学校寮の新規開発・管理受託(中央大学、上智大学)
- 全国の新築マンション(各地域の代表物件)
- 「CAMPUS VILLAGE」の展開
- 家賃にポイントが付く業界初のサービス開始
- 安心して利用できる家財売却サービス開始
- 「ひとり暮らし学生 実態調査」発表
- タニタ食堂とのライセンス契約締結
- シェアキッチンでバレンタインお菓子教室開催

Go to PAGE 02

キャリア形成支援事業

学生と社会をつなぐ

- 「スカウトシップ」の登録者数が順調に拡大
- 東京工科大学「コーオプ教育」が表彰
- 神奈川県「グローバル人材支援事業」拡充へ
- 三重県の就職支援プログラム運営受託
- その他の留学生事業支援
- インターンシップ単位申請サイト「キャンパスウェブプラス」を開設
- 留学生受け入れルートを開拓

Go to PAGE 05

社会貢献活動への支援

国際交流と学生サポート

- ベトナム学生との国際交流活動
- 学生の自発性・創造性を育む支援活動



Go to PAGE 07

私たちは、愛情を込めて学生の生活とキャリア形成をサポートし、生涯に亘って輝き続ける人材を社会に送り出すことで、誇りある未来を創造していきます。

ますます、学生のために。これからの社会のために。



| 学生情報センター | ナジック・アイ・サポート | 北和建設 | シグマジャパン |

学生レジデンスの企画から入居募集・管理運営に至るまで、独自のビジネスモデルに基づく一貫したサポートを提供しています。

■ 学校寮の新規開発・管理受託

地方からの学生確保、増加する留学生の受け入れ、グローバル化の進展などに伴い、国際交流施設を拡充するニーズが高まっています。各学校で積極的な学校寮整備が進むなか、ナジックでは国際交流施設の管理運営業務を受託しています。

中央大学多摩キャンパス グローバル館（仮称）・国際教育寮（仮称）整備・運営事業

教育と研究の国際化を軸にグローバル化を推進する中央大学により、留学生のさらなる受け入れ拡大および日本人学生の留学への関心と意欲醸成のための環境整備として、当事業は推進されてきました。この事業において、積和不動産株式会社様を代表企業とするグループに参画し、運営事業者として採択されました。異文化交流などを体現できるラウンジや多目的教室、ホールなどを設け、多くの教育プログラムも予定される「グローバル館（仮称）」が計画され、これに併設の全306室からなる「国際教育寮（仮称）」の管理運営をナジックが担います。この教育寮は、1ユニット6個室のシェアタイプ、全50ユニットで構成。各階にラウンジやキッチン、学習室などバリエーションを持たせた共用空間が配され、生活のなかで自然と交流がうまれる「学びの場」となっています。2020年4月に供用開始予定です。



上智大学「アルペ国際学生寮」管理受託（東京）

2019年4月、JR「信濃町」駅から徒歩1分の立地に、男女別棟・全182室の「アルペ国際学生寮」が新設されました。この新設寮では、国際感覚豊かな人材の輩出をめざしており、多文化・多言語環境における共同生活を通じて、寮生の人的な成長を促します。寮生には約9㎡の居室が割り振られ、6~7名で一つのユニットを構成するシェアハウス方式を採用。ユニット単位でダイニングキッチンやトイレ、シャワーを共用します。各フロアには「コモリビング」が設置されており、フロアを越えて寮生が交流できるよう設計されています。また、障がいのある学生などに配慮し、シャワー、洗面、キッチン、トイレを室内に設けた個室が2室準備されています。礼拝室、学習室、シアタールーム、軽スポーツスタジオもあり、多様な学生同士の交流と学びの環境が整っています。



■ 「CAMPUS VILLAGE」の展開

CAMPUS VILLAGE

「キャンパスヴィレッジ椎名町」（東京）

昨春、入居を開始した「CAMPUS VILLAGE」第1号の当施設（全167室）では、ウェルカムパーティやハロウィンパーティ、バレンタインチョコレートケーキ教室など、さまざまなイベントを開催し、異なる学校に通う学生同士の交流を育んできました。カフェテリアのメニューや料理のおいしさには定評があり、これを楽しみに日々帰宅する学生も多いようです。



「キャンパスヴィレッジ赤羽志茂」（東京）

東京メトロ南北線「志茂」駅から徒歩8分、都内2棟目となる全233室の「CAMPUS VILLAGE」が2019年2月に竣工しました。東洋大学をはじめとした沿線の大学に通う学生が多数入居しています。吹き抜けのカフェテリアと、シェアライブラリーなどがある2階は大階段でつながっており、開放感のある空間で多くの学生たちが交流し、活気に満ちています。



■ 全国の新築マンション（各地域の代表物件）

少子化が進む環境下においても、大都市圏の安全・安心な学生マンションのニーズは堅調に推移しています。アクセスの良さや利便性に加え、セキュリティなどの設備面が充実しているマンションが高く評価されています。

「カルミア町田」（東京）

小田急線「町田」駅から徒歩7分と、北里大学、桜美林大学などへの通学に便利な全21室のマンションです。セパレートのバス・トイレと浴室乾燥機が付いた充実の設備、広々としたリビングが魅力です。「カルミア」は「大きな希望」の花言葉を持つ花の名で、希望に満ちた大学生活を送ってほしいとの思いから命名されました。



「エルメディオ千種」（愛知）

地下鉄東山線「千種」駅の他、複数の路線・駅から徒歩5分、全180室のマンションです。事業主は老舗繊維商社の豊島株式会社様です。セキュリティシステムや宅配ボックスなどの充実した設備に加え、1階にコンビニタイプのドラッグストアが入居しており、高い利便性も提供しています。



「ル・レーヴ向山Ⅱ」（愛知）

中電不動産株式会社様を事業主とする管理受託案件で4棟目となる学生マンションです。中部電力株式会社様の社宅跡地活用策として事業化され、北和建設が施工しました。南山大学、名古屋大学に至近の邸宅が立ち並ぶ閑静な文教地区に立地。町内には2011年竣工の「ル・レーヴ向山」があるため、「ル・レーヴ向山Ⅱ」と命名されました。



「ドミールコート伏見桃山」（京都）

伏見大手筋商店街まで徒歩1分、京阪本線と近鉄京都線のそれぞれの最寄駅からアーケードを歩けば「傘いらず」の立地の良さに加え、独立洗面化粧台や温水洗浄便座などが備わった、全49室のマンションです。事業主は清和総合建物株式会社様で、北和建設が施工しました。龍谷大学、京都美術工芸大学など京都市内にある大学の通学圏内です。



「Plaisir茨木」（大阪）

立命館大学大阪いばらきキャンパスの目前に、鉄骨造6階建ての複合施設が完成しました。1階にスーパーマーケット、2階にドラッグストアなどが入居し、3・4階が学生マンション、5・6階がソーシャルアパートメントと、学生の暮らしを中心に考えた多様な構成が特徴。事業主は、JR西日本不動産開発株式会社様です。



「ソアラプラザ九大学研都市」（福岡）

2018年秋、九州大学のキャンパス移転に合わせて、全126室の学生マンションが完成しました。JR「九大学研都市」駅から徒歩1分の場所で、学生たちが新しい生活を始めています。充実のセキュリティ、便利な周辺環境、都心部へのアクセスの良さが魅力。事業主は、ナジックマンション最大のオーナーである日本土地建物株式会社様です。



東急不動産の学生レジデンス「CAMPUS VILLAGE」は、「次の社会を担う学生たちへ、安心安全な住環境とともに、新しいライフスタイルを提案する住まい」です。ナジックが管理運営を担い、きめ細かな24時間の管理だけでなく、入居者同士のコミュニティ形成促進を図っています。

「キャンパスヴィレッジ元住吉」（神奈川）

慶應義塾大学日吉キャンパス、青山学院大学などへ好アクセスの東急東横線・目黒線「元住吉」駅から徒歩11分、全65室の「CAMPUS VILLAGE」です。2019年2月に竣工しました。居室はバス・トイレがセパレートで、独立洗面台も設置しています。1階の広々としたシェアキッチンラウンジなどで、思い切り料理を楽しむことができ、仲間と食事時間を共有できます。



「キャンパスヴィレッジ京都西京極」（京都）

学生の街・京都にも、全113室の「CAMPUS VILLAGE」が2019年3月に竣工しました。阪急京都線「西京極」駅から徒歩13分、京都駅へのアクセスも良く、生活利便性の高いエリアです。1階にはフィットネ斯拉ウンジを設置。選択制の食事はスマートフォンから事前に予約できます。周辺に多い女子大学の需要を見込み、6・7階は女子専用フロアになっています。



■ 家賃にポイントが付く業界初のサービス開始

株式会社エポスカード様との提携により、エポスカードを使った家賃決済、家賃に対するエポスポイントの付与を2018年10月に開始しました。ナジックマンションの新規ご契約者を対象に、エポスカードの発行も行っています。家賃の支払いにエポスカードを使用すると、200円につき1エポスポイント（1円相当）が付与され、月額の家賃が7万円の物件であれば、年間4,200ポイント以上が貯まることになります。クレジットカードによる家賃決済にポイントが付与するのは、業界初の取り組みです。



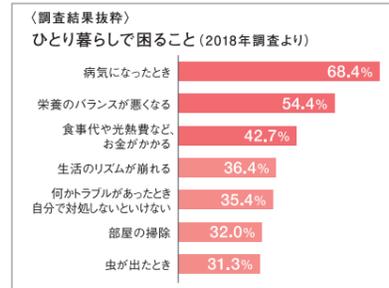
■ 安心して利用できる家財売却サービス開始

買取プラットフォーム「ウリドキ」を運営する株式会社ウリドキネット様との提携により、ナジックマンションの入居者を対象とした家財売却サービスを2019年1月から提供しています。毎年、卒業に伴ってマンションを退去する学生から家財処分に関する相談が多く寄せられる一方で、多様化する不用品流通サービスの利用に戸惑う学生も多いことから、利便性と安全性が期待される同サービスを導入しました。商品の配送や決済の手間を省略でき、個人間の取引トラブルのリスクも回避できるため、学生にも利用しやすいのが特徴です。今後、その他のマンションにも展開していきます。



■ 「ひとり暮らし学生 実態調査」発表

ナジックマンションの入居者を対象とした「ひとり暮らし学生 実態調査」を実施しました。2018年には、ひとり暮らしについて調査。ひとり暮らしをして、良かったこととして「両親に感謝するようになった」（58.2%）との回答が多く、困ったこととして「病気になったとき」（68.4%）、「栄養のバランスが悪くなる」（54.4%）など、健康や食事に関する回答が目立ちました。2019年には、学生のコミュニケーションや情報収集などについて調査。学生の99.4%がスマートフォンを所有し、うち86.0%がiPhoneを利用していると回答。自宅で「何をして過ごすことが多いか」への回答割合は、「テレビを見る」より「スマートフォン操作」が大きく上回る結果となりました。



■ タニタ食堂とのライセンス契約締結

ナジックが管理運営する「女子学生会館ブリックス」において、健康食ブームの先駆けである株式会社タニタ食堂様とライセンス契約を締結し、2019年4月に同社が監修した食事の提供を開始しました。タニタシェフが調理するメニューは野菜をふんだんに使い、一回あたり約500キロカロリーに抑えられています。「ひとり暮らし学生 実態調査2018」によると学生の54%が栄養バランスに気を遣うなか、さらなる安心の提供をめざします。今後は同社の管理栄養士による無料カウンセリングなどイベントの企画も予定しており、近隣住民にタニタカフェとして食堂を開放することも検討しています。



■ シェアキッチンでバレンタインお菓子教室開催

イセ食品株式会社様と「キャンパスヴィレッジ椎名町」の学生を対象としたバレンタインお菓子教室を2019年2月に開催しました。たまごの知識を交えながら、同社が提供する「森のたまご」を使用したチョコレートケーキ作りのレクチャーが行われました。学生はお菓子作りの初心者から上級者までさまざまでしたが、共同作業を通じて話に花を咲かせていました。今後も、増えつつあるシェアキッチンで同社を含む多様な食材メーカーとのコラボレーションを展開させ、学生のコミュニティづくりの場を提供していきます。



教育機関や自治体などと連携を図りながら、学生のキャリア形成をサポートする環境づくりをめざしています。また、学生が企業での就業体験を通じて実践力を身につける有給インターンシップを展開しています。

■ 「スカウトシップ」の登録者数が順調に拡大

インターンシップに特化したスカウトサイト「スカウトシップ」は、2018年5月のリリース以来、登録学生数を順調に伸ばしています。現在は2～3年生を中心とした約5,000名が登録するサイトに成長。登録学生は、サイトでいつでも行えるアセスメントによって自己理解を深めつつ、インターンシップで実践的な経験を重ねています。今後、就職スケジュールが多様化することを踏まえると、学生にとっては将来像の具体化や実践的能力の育成などに、企業にとっては学生による企業理解・業界理解の促進などにつながるインターンシップはさらなる増加が見込まれ、スカウトシップの役割も一層大きくなります。引き続き、学生・企業にとって有益な機会の創出に尽力していきます。



■ 東京工科大学「コーオプ教育」が表彰

文部科学省が2018年12月に初開催した「大学等におけるインターンシップ表彰」において、ナジックが運営を担う東京工科大学のコーオプ教育が「優秀賞」を受賞しました。この表彰は、大学や企業などにとってモデルとなる事例をグッドプラクティスとして称え、その成果を広く普及させるために実施されました。東京工科大学のコーオプ教育は、必須科目かつ有給のインターンシップであることや、コーオプセンターを設置するなどの組織的な運営が特に高く評価され、今回の受賞に至りました。これまでコーオプ教育は工学部のみで実施されてきましたが、2019年度から他学部でも展開されています。



■ 神奈川県「グローバル人材支援事業」拡充へ

2017年度から運営に携わってきた当事業は、ナジック・アイ・サポートを代表企業に、学生情報センターと一般社団法人日本留学生会協会が共同運営を行っています。留学生支援拠点「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION」の運営を中心に、交流イベントの開催やウェブサイト・SNSを通じた情報発信にも取り組んできました。さらに2019年度以降は、ナジックの事業とリンクさせ、外国人留学生のキャリア形成に関する取り組みを強化。神奈川県やサポート会員企業、大学などと協力しながら、就職支援も加えた外国人留学生の総合支援につなげていきます。



■ 三重県の就職支援プログラム運営受託

観光産業、食品や情報関連産業を中心に、三重県での就職を希望する人を対象とした就職支援プログラムを三重県より受託し、求職者募集・選考から、研修の実施、企業開拓、就業先のマッチング、プログラムの運営、キャリアカウンセリング、就職の斡旋や調整までの業務を担いました。当プログラムは、最初の1カ月間を基礎編・応用編からなる研修期間とし、一人ひとりの志向性や適性をもとに就業先とのマッチングを実施。その後、5カ月間の職場体験に進むもので、有給にて提供されました。2018年7月から半年間のプログラムを終えた求職者37名のうち、21名の就職が決定しました。



■ その他の留学生事業支援

留学生が日本企業に就職・定着できるよう支援するための、さまざまな事業に携わっています。留学生スタディ京都ネットワークの「留学生対象有給インターンシップ事業」では、参加者がインターンシップ先に就職し、国際業務で活躍するなど確実な成果を生み出しています。その他に、大学コンソーシアムひょうご神戸の「ひょうご留学生インターンシップ事業」、大阪市の「留学生との連携拡大事業」などの運営に継続的に取り組んでいます。福岡市では既卒留学生の地元企業への就職支援事業に携わり、地元企業の国際力強化に寄与する取り組みとして注目されています。



■ インターンシップ単位申請サイト「キャンパスウェブプラス」を開設

2019年5月、大学向けインターンシップ単位申請サイト「キャンパスウェブプラス」をリリースします。「キャンパスウェブプラス」は、ナジックが保有する、大学向けインターンシップ求人掲載サイト「キャンパスウェブ」とインターンシップに特化したスカウトサイト「スカウトシップ」をプラットフォームにしたシステムです。大学による、さまざまなインターンシップ求人を提供するとともに、多様化するインターンシップに対応。事前事後学修管理を含む単位申請から認定の全フローをWeb上で管理運営することができます。このサイトにより、学校はインターンシップ求人の確保や管理事務の大幅な省力化だけでなく、サイト上で収集したデータをキャリア教育に活用することが可能となります。

■ 留学生受け入れルートを開拓

2008年政府発表の「留学生30万人計画」において、2020年に留学生30万人を受け入れる目標が掲げられるなか、2017年の留学生数は26.7万人に達しています。しかし、9割以上がアジア諸国からの留学生と偏りがあり、また、留学生の6割が日本での就職を希望しながら実際の就職率が3割にとどまるなど、新たな課題が浮き彫りとなっています。ナジックは多様な留学生の誘致、質の高い日本語教育およびキャリア教育支援を重要な施策と捉え、ヨーロッパルートとして、独自の日本語教育を確立しパリ分校の運営実績もある新宿日本語学校と、中国ルートとして、中国南部を拠点とする日本語教育機関とそれぞれ連携し、留学生の誘致だけでなく、日本語教育、住まいや生活の支援、キャリア教育につながるアルバイトの支援、日本での定着支援などを一貫して実施していきます。



ヨーロッパルートの拠点、新宿日本語学校 (SNG) のパリ校。パリ11区にある。

中国ルートの拠点、昆明市にある「大学城」複数の大学が集まり、約10万人が学ぶ。

協賛などの取り組み

ナジックグループでは、メディアやイベントへの協力・協賛を通して、学生、学校、地域に貢献する取り組みに力を入れています。

インターンシップなどに協力 (河北新報社)

河北新報社が仙台の大学生を対象に提供するインターンシップに協力しました。企業の課題解決を図るワークなどを通じて、新聞社の仕事を体験する6日間のプログラムで、参加した学生12名は、ナジックを題材にしたPRについて研究・発表を行いました。さらに、学生が河北新報を毎日読み、コメントを付ける「新聞モニター」にも協力しました。コメントへの添削を受けられる他、伝わる文章の書き方セミナーに参加できるなど、学生にとって充実のプログラムでした。



京都マラソンを応援 (京都市)

2019年2月に開催された「京都マラソン2019」のスポンサー出展ブースで、ランナーにエールを送りました。2012年にスタートした京都マラソンは、複数の観光名所近くを走り抜ける市民参加型のマラソン大会です。

大学スポーツ新聞コンテストを共催 (報知新聞社)

昨年に続き、報知新聞社との共催で「ナジック杯大学スポーツ新聞コンテスト」を実施しました。このコンテストは、大学のスポーツ新聞制作活動を支援し、大学スポーツ振興と学生支援に貢献するため、報知新聞社が10年以上にわたって開催してきたものです。2019年1月12日に行われた表彰式では、明治大学スポーツ新聞「明大スポーツ」へ最優秀賞であるナジック杯を贈呈しました。



九州大学キャンパス移転完了特集に協賛 (西日本新聞社)

西日本新聞が2018年9月29日の紙面に掲載した特集記事「九州大学伊都キャンパス完成記念」に協賛しました。



学生の生活に関わる各種の支援活動を通じて、心や人間性の充実した学生生活の実現を推進し、我が国の高等教育の振興に寄与することを目的としています。

■ ベトナム学生との国際交流活動

第12回「Nasicカップ日本語スピーチコンテスト」開催

ハノイ大学、ハノイ国家大学外国語大学、ハノイ貿易大学、ハノイ工科大学、タンロン大学の協力の下、2018年9月にハノイ大学で「Nasicカップ日本語スピーチコンテスト」を開催しました。審査員として、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターやベトナム日本商工会議所などの関係者にもご参加いただき、100名を超える第1次審査通過者から第2次予選を勝ち抜いたベトナム人学生13名が本コンテストに出場。熱気あふれる雰囲気の中、最優秀賞1名、優秀賞5名、努力賞7名が選考されました。渡越中にはハノイ市内の大学や日本語学校、日系企業を訪問し、現地との相互理解や友好を深めました。2018年は「日越外交関係樹立45周年」にあたり、駐ベトナム日本国大使を委員長とする実行委員会から記念事業に認定されました。



第16回「日本・ベトナム学生交流会」開催

ベトナムからの学生訪日団を歓迎する「日本・ベトナム学生交流会」を2018年10月に開催し、東京・京都の両会場合わせて約300名の方々にご参加いただきました。ベトナム教育訓練省国際協力局副局長のグエン・ハイ・タイン団長、ベトナム教育訓練省国際協力局局員のグエン・ティ・タイン・タム副団長に加え、ベトナム15大学の30名(第12回「Nasicカップ日本語スピーチコンテスト」の最優秀賞1名、優秀賞5名を含む)からなるベトナム学生訪日団を日本へ招待し、関東・関西の主要大学の見学や歓迎レセプションを実施しました。東京会場では、学校法人明治薬科大学理事長の奥山徹様、京都会場では、京都市総合企画局総合政策室大学政策部長の塩野谷和寛様にご挨拶いただき、レセプションは閉会しました。



■ 学生の自発性・創造性を育む支援活動

平成30年度「学生ボランティア団体助成」および「学生ビジネスプランコンテスト」表彰式

一般財団法人学生サポートセンター「学生ボランティア団体助成」および「学生ビジネスプランコンテスト」(創造性涵養事業)の表彰式を、2019年2月に東京・京都の両会場で開催しました。各選考委員会の厳正な審査の下、54の学生ボランティア団体(53大学1専門学校)および19作品の助成ビジネスプラン(19大学)が採択されました。表彰式には、東京・京都の両会場合わせて約200名の方々にご出席いただきました。

東京会場では、文部科学省高等教育局学生・留学生課長の塩崎正晴様の名代として課長補佐の成相圭二様よりご祝辞を頂戴しました。ボランティア団体には、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の顧問(元・東京工業大学学長)で当財団理事としてボランティア選考委員会委員長を務める木村孟氏(東京会場)および近畿合同法律事務所の弁護士で当財団顧問の野間督司氏(京都会場)より、表彰状を贈呈。ビジネスプランコンテスト受賞者には、学校法人昭和女子大学名誉理事(元理事長)で当財団理事として創造性涵養選考委員会副委員長を務める平尾光司氏(東京会場)、大阪電気通信大学副学長の森幸治様(京都会場)より、贈呈が行われました。ご参加いただいた学校関係者や学生同士が活発に情報交換を行うなど懇親会は盛況でした。

会の途中には、ビジネスプランコンテストとの連携企画として、東急不動産が実施する起業支援プログラムについても発表が行われました。採択された大学の学生は、3カ月間ベンチャーキャピタルなどでの指導を受け、起業を視野に事業プランをブラッシュアップするプログラムに参加します。

